



見沼たんぼくらのイベント

第55回自然観察ハイキング『見沼の自然と史跡を訪ねて』

見沼区 常泉寺から加田屋田圃を経て思い出の里へ

9月21日(土) 9時30分、根木輪バス停に23名が集合。曲がりくねった田舎道を歩いて、常泉寺境内で初めのつどいを行った。

常泉寺 広島・長崎 原爆の火、朝鮮人慰霊碑、蓄霊の墓 に参拝

当寺は徳川家康から寺領10石をいただいた曹洞宗の古刹。生命の尊厳を訴える異色の寺院。

原爆投下の折、広島・長崎の焼け跡に残された恨みの火、反核の火が住職によって灯され続けているモニュメント。

朝鮮人慰霊碑は、関東大震災の折、当染谷地区で「朝鮮人が襲って来るぞ」という噂に踊らされ、無実の朝鮮人が自警団の手で殺された。その後、真相を知った住人たちが死を悼んで建立された墓碑。



蓄霊の墓は、大きな供養塔の回りに飼犬や飼猫の墓が名前も刻まれてぎっしり並んでいる。

加田屋は見沼田圃の原風景 斜面林—稲田—ヒガンバナ

染谷の台地から加田屋川低地に降りた。緑一色の斜面林—黄金の稲穂たなびく水田—朱赤色に染まるヒガンバナ群生地。

まさに、見沼田圃の里やまと言える原風景だ。

加田屋たんぼはNPO法人見沼ファーム21主催の県民参加体験水田だ。有機農法のお蔭で、絶滅危惧種のキクモが自然復元し、紅紫色の小さな唇形花を咲かせていた。他の湿性植物では、イボクサ・サンカクイ・タカサブロウの花が目立った。

見沼代用水東縁の西側の土手には、延々と朱赤色に染まるヒガンバナの群生が続いている。公園化したヒガンバナ名勝地と異なり、多種の野草と共生し、すっくと立ち上がる姿が頼もしい。

思い出の里 アルピニスト加藤保男の墓参り

ゴールの市営霊園・思い出の里では、厳冬のエベレスト世界初登頂に成功した後、消息をたった大宮区宮町出身の加藤保男さんの墓碑を訪れた。

ガイドには、NPO法人自然観察さいたまフレンド所属の日本自然保護協会自然観察指導員6名が当たった。

(小野 達二 記)

見沼たんぼくらのイベント

第4回清掃ボランティア

11月4日文化の日の振替休日に、見沼グリーンセンター周辺で清掃活動が実施されました。当日朝はあいにくの小雨模様で「参加者が少ないのではないのか」と心配されましたが集合時間の午



前9時30分には雨も上がり、曇り空の下、昨年より多い52人の参加がありました。

清掃は例年と同様に見沼グリーンセンター正門を起点に、まず全員で風車のある見晴らし公園周辺で活動を行ったあと、見沼たんぼの芝川沿いの神明下橋から石橋までの約1キロを二手に分かれ、空き缶やペットボトルをはじめ様々な廃棄物の回収に当たりました。

最近は大形の廃棄物や空き缶などは減り市民のモラルの高さを感じます。しかし、今回は朝に雨が降ったため紙や使い捨ておむつなどが水を吸って回収で苦勞をする場面もありました。約1時間半の活動は、あっという間に終了。最後に記念品として、見沼ファーム21がさいたま市加田屋の見沼たんぼで生産したお米とお茶を受け取り帰路に着きました。

この清掃活動の参加者は中高齢の方が多い傾向にあります。今回は3組の親子連れの参加もありました。お子さんにとってはもっと違うことで遊びたい希望があったのではないのでしょうか。そういう中で、お子さんを連れ参加していただいた親御さんには感謝の気持ちで一杯です。

ボランティアというと、何か肩肘を張ってしまって、気持ちはあってもなかなか行動に移すことができないものです。でも、参加してみるとボランティアをしているという意識も感じることなく気持ち良く過ごせます。

気楽に参加できますので、来年も多くの皆さんの参加をお待ちしております。

(三上 雅央記)

第5回見沼たんぼウォーキング

早いもので私の担当するウォーキングは今年で5年目になった。この企画は見沼たんぼ周辺を歩くことで、見沼たんぼのよさを知ってもらおうということが本来の目的である。

世間には何千人から何万人もの人を集めるお祭り騒ぎのウォーキングもあるが、これらのものはその時だけのものであって、日常的に自分で歩けるようなコースは少ない。

昨年は90名近い参加者であったが、今回は前日の天気予報がよくなかったためか、58名という結果であり振るわなかった。

歩く距離は、さいたま新都心駅から見沼代用水の西縁に出て、芝川の土手道を歩く約7キロである。多少クルマの通る道もあるが、大半は遊歩道のようになっているのんびりと歩けるいわば散策コースにもなる場所である。

周辺の樹木は紅葉が始まっていて、川辺にはカワセミが何度も顔を出し、アオサギやヒドリガモなども見られた。

休憩の場所にもなった、南部浄化センターではビオトープを散策する人も見受けられ、この場所をコースに入れたことは大変よかったと思う。

ある参加者からは、「贅沢なウォーキングですね」とのコメントをいただいた。多分誘導員の人数やたくさんの幟旗などに満足されたようである。

最後に、いつもながらたんぼくらぶ会員の参加が少ないように思われます。



この企画も考え直す時期にきていると思いますのでどうぞ皆様方からのご意見をお聞かせください。

(佐々木 明男記)

見沼たんぼくらのイベント

見沼ふれあい農園・づくり里芋・八つ頭

緑区見沼大橋近くの畑で11月12日(火)「里芋・八つ頭の収穫祭」があり曇り空の下54人が芋ほりを楽しんだ。この催しは今年で2回目、見沼たんぼくらは会員が見沼たんぼを活用し収穫物を福祉団体へ寄贈することを目的としたものだ。

5月に種イモを植え付け、6回の除草、2回のためし掘りを行い収穫の日を迎えた。今年は9月中旬の台風18号と10月中旬の台風26号で畑が2度にわたり冠水したがその影響もなく大量の芋を収穫することができた。この大収穫は植え付け前に厚澤副会長が畑の土をふかふかでやわらかく耕してくれたことと夏の暑い盛りに参加会員がきれいに草取りをしてくれたことで根と茎がしっかりと育っていたためだと思われる。関係者の皆さんに感謝だ。

当日は(社会福祉法人)久美愛園、(NPO法人)ともに生きる会さんご、(社会福祉法人)ななくさ大谷作業所の皆さんが芋ほり体験して楽しんでいただきました。

体験参加者に聞くと「里芋と八つ頭は葉っぱ

が同じなので違いが判らなかったが茎が緑色が里芋で茶色が八つ頭だと知りました。」「八つ頭は根に泥がついていて食べられる形にするのが大変だ」などと話していました。また、ともに生きる会さんごでは「収穫した里芋はみんなの15時のおやつとして、ふかして食べる予定」だとのことでした。

寄贈先は上記3団体と配食サービスひまわり、いきいきサロン陽だまりの会、デイセンターさくら草の6団体に提供した。

(砂長 敏郎記)

見沼ふれあい農園秋野菜づくり

本年度は埼玉県から委託を受けている見沼2号地において、県民の皆さんの参加を得て秋野菜づくりを行った。大根、小松菜、水菜、春菊、キャベツ、ブロッコリー、など数種類を、種蒔き、除草、間引きなどを適時行って、11月には収穫を楽しんだ。

日程、参加者は以下のとおりであった。

1	9/7	種まき	88人
2	9/28	除草と間引き	48人
3	10/12	除草と間引き	39人
4	11/2	除草と間引き	52人
5	11/16	収穫	79人



全5回全て参加した家族は5家族であった。残念なことに、今年は台風の影響で大根、小松菜などに被害があり、作況は例年をかなり下回り、収穫量は減少したが、それでも参加者の皆さんは秋空のもと、楽しく収穫を行い、それぞれ各家庭に持ち帰ることが出来た事は何よりであった。

子供たちの参加も増えて、自然に親しむことの出来るこの事業は、教育上も大きな効果が期待できるものと思う。そして、まさに産直の野菜を家族で味わえることの喜びは何よりも替え難いことであろう。見沼の自然を守り、農作業の大切さを体得出来るこの事業が益々発展継続されるよう期待するものである。

(新井 一裕記)



見沼たんぼ水彩スケッチ紀行

絵と解説 八木一郎

見沼自然公園 晩秋の頃

秋も深くなると落羽松やメタセコイアを交えた多くの木々が紅葉・黄葉に変わり、「錦繡（キンシュウ）」の名にふさわしい彩りとなる。

春から夏にかけて可憐さを誇った睡蓮も、今は一部の葉を残して水面下で静かに来年の出番を待つ。岸辺の枯れた葦も寒風にゆれており、ときたま姿を見せる鴨も動きが遅く、東屋に憩う人々の姿も少なくなってきた。寒さが増すなか、「錦繡の彩り」逃すべからずと思いながら筆をとる。



紅葉の別所沼 (さいたま市南区 別所)



別所沼はJR中浦和駅から徒歩5分に位置するさいたま市立の公園。沼の周囲にはメタセコイアや気根（呼吸根）が特徴のラクウショウが植樹されており、秋が深くなると一斉に紅葉に衣替える。

公園西側に沿って高沼用水（東縁）が流れているが、これは徳川吉宗の時代、井沢弥惣兵衛為永翁により開削されたもの。溜井としての別所沼とともに貴重な灌漑用水となってきた。



熊野神社 (さいたま市見沼区片柳771)

見沼たんぼを見下ろす小高い丘に鎮座するお社。

新編武蔵風土記によれば、江戸時代は村内の「祥巖寺 持」で、明治4年廃寺・社号を熊野神社に変えた村の鎮守様。昔、若者が挑戦した「力石」が境内に多く奉納されている。

見沼たんぼくらぶ会員作品展

「頭先（ズサキ）稲荷明神大稲荷 作者 野間靖代

大崎公園のすぐ北にある小さなお稲荷様。近所の人々の信仰を集めているようで、一月にはお正月飾りで綺麗に手入れがされていました。

享保15年（1730年）江戸幕府の命により見沼溜井が干拓されたとき、農家の人々が豊作と子孫繁栄を祈願して創建されたのが始まりだそうです。さらに育児の神として幼児の夜泣きを治すことでも有名になり、近年では頭先という名前のご縁から出世を祈願することでも人気が高まっています。



見沼たんぼ探訪記

木曾呂富士塚に行く

今年6月22日、ユネスコ（国連教育科学文化機関）から富士山が「世界文化遺産」に登録されたと発表されました。さいたま市緑区「見沼通船堀」の近くに、「木曾呂富士塚」があります。富士山の、世界遺産登録記念と言う事を出掛けてみました。

江戸時代には「富士講」の行者等、富士登山が盛んに行われるようになったそうですが、遠方の人たちは行くのは大変でした。そこで、江戸を中心に各地の寺院や神社の境内に、富士山に似た「塚」を築造して、老若男女の誰もが富士山に代わって気軽にこの塚に登山できるようになりました。これが富士塚です。県内に現在約300ヶ所あるそうですが、木曾呂富士塚は県内最古の塚



で、昭和55年に重要有形民俗文化財に指定されました。

富士塚に着くと、

3人組の奥様方が塚の頂上から降りてきたところでした。「チョッと急な階段ですから気を付けて登ってください」と親切にも教えてくれるのです。彼女たちも富士山が世界遺産に登録された記念に、見沼たんぼの散策を兼ねてここに来たと言うのでした。

高さ5.4mの塚を登ると彼女たちの言った通りで、急な石段をぐるりと回りながら進むのです。頂上には火口を思わせる穴があり、その周りを「お鉢巡り」が出来るようになっていました。今は出来ませんが、昔は中腹を貫いた穴で「胎内潜り」が出来たそうです。

当時は頂上から富士山を望む事が出来たそうですが、今は樹木の陰になってしまい見えなかった事はとても残念でした。（召田 紀雄記）

散歩の楽しみ

散歩は私の日課で目標は1万歩ですがその日その日の流れでどうにでもなってしまいます。

いつも家から5分くらいで浦和西高前の正樹院橋から見沼代用水西縁に出て流れにそって桜並木を歩きます。さてと今日はどこまで行くかと思いつながらしばらく歩く、畑の中にちらほら菊の花が見える、今菊の季節だ今日は菊の花見にしよう、土手から畑の道に出て花のある方に足を向ける道端いっぱい咲き乱れている畑がある、ここは手入れされてないようだが草に負けていない菊は強い。芝川に出たので上山口新田住宅の方へ足をむける、やはり咲いています土手の両側に植えてあり良く手入れされていて見事に咲いています。

作っている皆さんに感謝しつつ通りすぎる。ここまで来ると障がい者交流センターが見える今日はセンター祭りだ寄って行こう。ここも散歩コースになっていてトイレやランチなどに入ることも、今日午後コンサートがあるので私も入れるかな、どうぞとの事で席にて開演をまつ、プロのピアノとソプラノのコラボとの事、たっぷりコンサートを楽しみ帰家する。

散歩の楽しみはいろいろで鴨と遊ぶために食パンをもって出



かけたり、時季には桜やヤブカンゾウ、曼珠沙華が見ごたえがある。他に景観だ、西縁には何か所かビューポイントがある。一つが見沼たんぼの自然と新都心ビル群のコントラスト。もう一つが富士山だ、新大道橋を芝川の上まで行くとマンションと高森の間に白い雪をかぶった富士山が見える、そこから右を見ると芝川の先に新都心のビル群が輝いている。ここは最高のビューポイントだ。これからも季節毎に私に楽しみを与えてくれる見沼たんぼ有難う。

（西方 昇記）

見沼たんぼの仲間たちNo.28

自然環境を守るためのせっけん使用を勧める

合成洗剤をやめていのちと自然を守る埼玉連絡会 大高 文

合成洗剤は石油を原料として高温、高圧によって製造する。合成洗剤がコンパクトになるほど、合成界面活性剤の割合は増えている。合成界面活性剤の成分は、環境中に排出されたときヤシ油や牛脂などの天然原料のせっけんよりも分解性はるかに悪く河川や下水道などに長く留まり、微生物を殺してしまい、自然の浄化能力を阻害し、近年の河川の汚れの原因になっている。

私達は、かいわれ大根の発芽実験で合成洗剤の植物への影響を実証している。(写真参照) これは、せっけんと合成洗剤を比較したもので、共に標準使用量の2分の1の濃度の溶液にかいわれ大根の種を撒き、その様子を観察したものである。発芽は、同時にするものの1週間ほど経過すると、その変化は顕著に表れる。

合成洗剤の溶液のかいわれ大根は、根の生長点が破壊され、根っこが伸びず、いずれ腐ってしまう。一方、せっけんの方は溶液が分解されるその有機物が肥料となり、水だけより太く成長した。実験を通し、合成洗剤の成分が河川や海に入っていくと、そこに生息する植物や動物に悪い影響を与えることが理解できる。

せっけんは、環境中に排泄され濃度が薄まれば界面活性作用が失われ、1日で分解される。有機物が水に入ると細菌が分解し、原生動物や動物プランクトンが細菌を食べ、さらにエビや魚が食べ、水と炭酸ガスになる。

自然の浄化能力は多種多様な生物がバランスよく生息していることが必要である。だから、せっけんは、合成洗剤とは異なり、自然環境に優しいのである。

当会では、合成洗剤とせっけんの違いなどを実験によって実証する「出前講座」を行っている。



(写真 その1)

資料として、当会発行の冊子『石けんのススメ』及び『石けんでシンプルライフ』がある。



(写真 その2)

「出前講座」及び冊子の申込みは下記の事務局までFAXまたは郵便でお願いします。

〒330-0075 浦和区針ヶ谷1-18-2
さいたま市水道労働組合内

FAX (048) 788-6470

合成洗剤をやめていのちと自然を守る埼玉連絡

見沼たんぼを支える農家さん

笠原園芸」笠原信男さん・勇さんをお訪ねして

下記に示した写真の手のひらの上の小さな半透



明の粒、何だと思いませんか？これがシクラメンの種。伸びているのは双葉です。

見沼氷川公園の東側に並ぶビニールハウス。中を覗くとたおやかなシクラメンが迎えてくれます。もともとは香りのない花なのですが、その姿からは「かほり」が立ち昇ってくるようです。

お父さんの信男さんは初め植木をやろうと思っ
ていましたが、それにはかなりの広さの土地が
必要となります。それでちょうど昭和 40 年代か
ら始まったシクラメンなどの鉢物のハウス栽培
に注目し、県の農業大学の研修で都内の農家で
研修を受けて栽培を始めました。今では家族 3 人
と 5 人のパートさんとで、8 棟のハウスで年間約
一万鉢のシクラメンを育てています。また、周り
が植木の生産地でもあるため植木の苗を作って
欲しいという要望に応じて、シクラメンの他に植
木の苗木も作っています。鉢物は植木と較べて土
作りが重要となるため、その技術を生かして苗木
をつくるといいものができるのだそうです。

シクラメンは一年一作。2 年目からももちろん
花は咲きますが、花がつくのが遅れるので、毎年、
種から作ります。11 月頃に種を蒔き、出荷までに
3 回植え替えをします。8 月頃からでてくる葉の
枚数だけ花芽がつくので、夏場にたくさん葉を出
させるようにします。途中で選抜するので、花ま
で育つのは蒔いた種の半分くらいだそうです。

販売は自宅での直売でほとんど捌けてしま
います。口コミのお客さんが多いそうですが、取材
中にも次々とお客さんがみえて、皆さん楽しそう
に笠原さんとおしゃべりしながら鉢を選んでい
る様子が印象的でした。

農家の長男坊は家を継ぐものだという空気
の中で育ったからごく自然に後を継いだ、という勇
さんは、県の農業大学を卒業後、2 年間アメリ
カのオレゴン州の植木の大農家で研修を受けま
す。自分がきっかけとなって農業に興味を持って
くれる人ができたらいいな、と勇さん。豊かな話
題とオレゴンの大地を思わせるおおらかな雰
囲気で、取材のことも忘れてお話に聞き惚れてしま
いました。

「年々、農家の高齢化は進むし、土で食って
いくのは厳しい時代だ」と語る信男さん。今残っ
ている見沼の農地を維持していくためにも、農家が
連携して直売など
ができる
道の駅
のような
施設が
必要
では
ない
かと
言
い
ま
す。
農
業
ほ
ど
面
白
い
も
の
は
な
い
で
す
よ、
と
明
る
く
言
い
切
つ
た
勇
さ
ん
の
力
強
い
言
葉
が、
と
り
ど
り
の
シ
ク
ラ
メ
ン
の
花
と
共
に
さ
わ
や
か
に
残
り
ま
し
た。



写 真：笠原勇さん

笠原園芸：さいたま市緑区見沼 520

電 話：048-873-6201

(取材：島田・高橋、記：高橋)

見沼たんぼくらのイベント案内

見沼たんぼくらのイベント案内 第96回見沼塾『見沼たんぼの野鳥』

日時：1月12日（日）9時～12時

集合：東武野田線大宮公園駅前

解散：大宮公園

■ 自然観察指導員のガイドで、大宮公園オート池及び芝川を中心に冬の野鳥を観察する(約5km)。

申込み：当日、集合地で8時30分から受付
参加費：無料

第56回自然観察ハイキング 『見沼の自然と史跡を訪ねて』

日時：3月22日（土）9時～12時

集合：JR武蔵野線東浦和駅前広場

解散：浦和くらしの博物館民家園（念仏橋バス停前）

■ 自然観察指導員のガイドで、史跡を巡りながら春の花を楽しむ 東浦和駅……見沼通船堀……木曾呂の富士塚……川口自然公園……東沼神社…浦和くらしの博物館民家園（約6km）

申込み：当日、集合地で8時30分から受付
参加費：無料（ただし、会員外は¥500）

会員の主宰するイベント情報

第225回見沼ぶらり・おもしろ自然観察

日時：1月19日（日）9時30分～12時30分

集合及び解散：大宮第二公園南管理棟

主催：NPO法人自然観察さいたまフレンド

■ 自然観察指導員のガイドで、テーマ別のグループ行動（約4km）

①冬の野鳥 ②冬の樹木 ③冬の野草

申込み：当日、集合地で9時から受付

参加費：¥500（但し、中学生以下は無料）

交通：大宮駅東口からバス⑧宮下または岩槻行き「芝川」下車、北側（乗車時間約15分）

* 入口から最初の建物内で受付

第2回さいたまマーチ

見沼ツーデーウォーク

期日：3月29日（土）及び30日（日）

出発及びゴール会場：高沼遊歩道公園

（JRさいたま新都心駅東口徒歩5分）

コース：第1日／北側 第2日／南側

*両日共30km・20km・10km・5kmコース

参加費：A事前申込み（1月8日～2月28日）

B当日申込み（3月29日～30日）

A 大人 ¥1,500 中学生以下¥800

B 大人 ¥2,000 中学生以下¥1,000

*ゼッケン、コースマップ、バッチ、記念品、傷害保険料を含む（未就学児は無料ですが、ゼッケンのみ提供）

問合せ：TEL（048）647-8338

9時～17時45分<土日祝休>

さいたまマーチ実行委員会事務局

現金申込は浦和・さいたま新都心観光案内所

見沼たんぼくらは、会員のみなさまの作品をみぬま通信で順番に紹介する誌上展覧会を開催します。

絵画や写真、クラフト、詩や俳句など、作品を会員の皆様から募集いたしますので、誌上に掲載する作品の写真または詩文と作品の紹介文を同封の上、本誌8ページに掲載の発行所まで郵送してください（写真は返却いたしません）。

見沼たんぼに関わる作品を優先して紹介させていただきますが、それ以外の作品でも紹介いたします。会員の皆様の多くのご応募をお待ちしております。なお、紙面の都合上、すべての作品を紹介できない場合もございますが、ご了承を

みぬま通信第57号

発行日 平成26年月1月1日

発行所 見沼たんぼくらぶ

〒337-0053 さいたま市見沼区大和田町
1-2124-3 小野方

TEL・FAX (048) 683-1764

E-mail t.ono@axel.ocn.ne.jp

URL <http://minumatanbo.web.fc2.com/>

© 2013 Minuma Tuusin